

## 富山大学産学交流振興会 会員企業便り(2)



## 北陸発の技術開発

株式会社タナベ 取締役 技術本部副本部長  
西村 研一

〒941-8686 新潟県糸魚川市大野978  
Tel 025-552-1601 Fax 025-552-8041

## 当社の概要

株式会社タナベは、新潟県糸魚川市の企業であり富山県との県境に位置します。県庁所在地新潟市には車で2時間ですが、富山市へは1時間と短距離です。当社は、創業92年、設立63年となりますが、その当時から技術会社として設計から設備製造・据付までの一貫受注生産会社として今日まで活動しています。この間、糸魚川市に本社を構え日本全国の企業のみならず海外での設備建設にも関わってきました。

始めは合金鉄用電気炉等の熔融還元用大型電気炉が主力商品でしたが、重厚長大から軽薄短小へ時代が変わると共に各種工業炉やFA（ファクトリーオートメーション）関連設備へとその商品内容は徐々に変化して現在に至っています。その中で、廃棄物の無害化や有効利用に目を向け各種リサイクル活用設備を手がけています。近年は、過熱水蒸気を利用した廃棄物リサイクルやその排熱利用エネルギー回収設備の開発、更には高機能粉体熱処理用途の外熱式大型ロータリーキルンの開発・販売を展開し好評を得ています。二次電池正極材・負極材原料製造やゼオライト焼成設備などがそれにあたります（写真1）。先の過熱水蒸気利用設備においても、金属切粉脱脂リサイクル・金属製品脱脂表面処理・カーボン材賦活化処理等多岐にわたる各企業の

要請に応じた設備設計の提案を実施しています（写真2）。もちろん、リサイクルという意味では、電気式溶解炉での有価金属回収設備提案から、省エネルギー志向のロックウール断熱材製造設備など今までの技術経験に裏付けされた熱エネルギー活用設備も手がけています。尚、富山県への代表的な納入設備として、2003年納入の富山地区広域圏クリーンセンターのゴミ焼却後の焼却灰溶融炉設備があります。この設備もゴミの再資源化活用や廃熱利用を目指した設備です（写真3）。

また、当社では富山大学出身技術者7名が現在活躍しています。私自身も富山大学ではありませんが、富山大学前（五福キャンパス）生まれの富山県出身です。子供時代は、富山大学のキャンパスが遊び場でした。当時、学生寮のお兄さん達によく一緒に遊んで頂いたことを今でも覚えております。当社には、私に限らず富山県出身者が多数在籍しており、これも新潟県とはいえ富山県境に本社があることが大きな要因です。それもあり、イブニング技術交流サロンに富山大学産学交流振興会を通して参画させて頂いております。

## 北陸地方と産学の関わり

近年、社会情勢の激変が永く続いており、それが日常的になっています。昔から太平洋沿岸と日本海沿岸

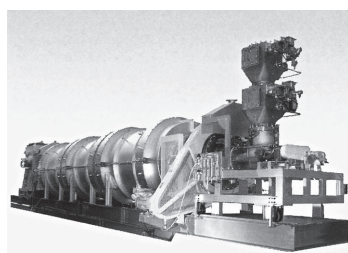


写真1 外熱式大型  
ロータリーキルン



写真2 過熱水蒸気利用  
ロータリーキルン



写真3 富山地区広域圏クリーン  
センター（溶融炉納入）

では、各地への時間距離・交通事情の悪さは存在していますが、それを打破する知恵と力を日本海側の各企業は持っていたと思います。道路事情も良くなり、新幹線整備も進んでいますが、日本海側のハンディを乗り越える知恵と力は今からこそ必要であり、それには各企業の努力はもちろん、産学あるいは官も含めた連

携した力の結集が重要と考えます。その中心的存在としての富山大学であって頂きたいと考えます。北陸発の技術発信・技術連携なくして、現在の、そしてこれからも続く難局を乗り越えることはできないと思います。県外企業ではありますが、今後共よろしくお願い致します。

## トピックス

### 第2回、第3回イブニング技術交流サロンが開催される



6月6日(金)16時から第2回イブニング技術交流サロンがカナルパークホテル富山(富山市)で開催されました。話題は大学院理工学研究部(理学)島田互准教授による「クラスレートハイドレートの物性と応用」と題するものと、同(工学)豊岡尚樹教授による「ト

ランスレーショナル・リサーチによる創薬研究」についてでした。前者では、本号にも掲載のメタンハイドレートの特異な性質について解説されました。後者では、新規医薬品の開発にコンピュータを用いて、候補化合物の設計、活性評価、有機合成化学による構造の最適化を行い、これまで数種類の有望な新規化合物を見出した例を紹介されました。本サロンには学外から8名の参加がありました。なお、本サロンに参加された(株)インテック 制御・プラットフォーム事業部営業部長 高木繁則氏より同社データセンター(高岡市、富山市)の見学会が提案され、後日(7月18日(金))、本サロン参加者や富山大学産学交流振興会会員企業から17名の参加を得て、最新鋭の施設と設備を見学しました。



8月1日(金)16時から第3回イブニング技術交流サロンが同カナルパークホテル富山(富山市)で開催されました。今回は経済学部坂 幸夫教授による「中国人技能実習生の日本からの離脱とインドネシア人技能実習生」と題するものと、大学院医学薬学研究部(薬

学)今中常雄教授による「難病ならびに熱帯感染症をターゲットにした治療薬の開発」と題する話題提供でした。前者では、中国人技能実習生の帰国動向と富山県内在住者の生活実態を調査した結果が紹介されました。また、増大しつつあるインドネシア人技能実習生の宗教的特性と今後の課題についても紹介されました。後者では、難病や熱帯感染症対策に疾患と関わるタンパク質や原虫の育成に必須のタンパク質を標的とした化合物スクリーニングのハイスループットアッセイ系を構築し、シーズ化合物を探索している研究の紹介でした。話題提供の後に交流会が開かれ、冷えたビールを片手に和やかな交流会が行なわれました。本サロンには学外から10名の参加がありました。